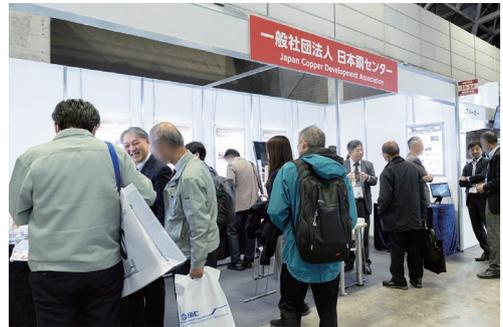


## News 04

### 「第12回高機能金属展 -METAL JAPAN- 東京展」に出展

日本銅センターは、2025年11月12日～14日、幕張メッセで開催された「第12回高機能金属展 -METAL JAPAN- 東京展」に出展した。

展示内容は「銅の超抗菌・抗ウイルス性能」「銅のリサイクルの現状」「銅素材・加工品に関する最新情報」の3項目。CU STAR 認証製品、銅のフロー図とリサイクル原料、銅管・銅電線・銅加工品等を揃え、PRを行った。



## News 05

### 「HVAC&R JAPAN 2026 第44回冷凍・空調・暖房展」に出展

日本銅センターは、2026年1月27日～30日、東京ビックサイトで開催された「HVAC & R JAPAN 2026 第44回冷凍・空調・暖房展」に出展した。

展示内容は「空調機器に使われる銅管」「エコキュートのエネルギー効率のカギを握る『銅』」「銅のリサイクルの現状」「日本銅センター規格」の4項目。各種銅管・エコキュートの実物展示等を行った。



## Topics

### 東京藝術大学大学院 永濱颯太さんの修士制作

東京藝術大学大学院建築専攻 永濱颯太さんの修士制作が「伝統的建築板金技術を用いた極薄銅板シェルの研究」だ。

職人の経験と勘を持って扱われる「しぼり」「たたき」の二つの加工技術を、デジタル技術を介して定量化することで、コンピューター上で設計した形状から逆算をし、加工ピッチ、回数を含む設計図を導き出すアルゴリズムを作成している。

銅の特性を活かした二つの技法が、形の成り立ちから構造、意匠までも横断することで生まれる銅素材100%の本制作は、伝統的板金技術を基にデジタル技術を融合させることで引き出される、銅という素材の「ふるまい」そのものが形となった作品であるといえる。



#### 編集後記

銅誌は前身の「プラス」から数えて200号、創刊66年となりました。これまで銅誌に携わった関係者の方々、読者の皆様改めて御礼申し上げます。

本号は歴史・現在・未来をテーマにしております。歴史は銅誌の歴史と過去の記事の再訪。現在は災害に対する観測網整備に使われる銅、製錬所におけるリサイクル、銅版画家の取り組みを。そして未来は大阪・関西万博、大学の研究室、子供達に科学の楽しさを伝える先生、夏休み自由研究コンテストの受賞者のご紹介です。

今号の編集では、過去の誌面を振り返ることで、当時の担当者が環境変化に適応しつつ銅誌のバトンをつないできた苦労を改めて実感し、深い感謝の念を抱きました。

また、弊センターに所蔵がない号について、この機会に全国の図書館の御協力を得てすべての発行号の内容を揃えることができました。これを貴重な財産として保存・活用できるように整備したいと考えております。

編集デスク 小澤 隆 (日本銅センター)

#### 情報発信委員会

(委員長) 宇佐見隆行 (古河電気工業株)  
(委員) 鉦山 / 和田久行 (バンバンフィック・カッパー株)、  
牛久和彦 (三菱マテリアル株)、吉本俊 (日本鋳業協会)  
伸銅 / 原田宗和 (株) 神戸製鋼所、根本優一 ((一社) 日本伸銅協会)  
電線 / 坂井有生 (株) フジクラ、若月英機 ((一社) 日本電線工業会)  
((一社) 日本銅センター) 桑山広司、波多野英明、岩谷恵美子